

デーリー東北
2026年(令和8年)7月1日(水曜日) (18)

若者目線で八戸の魅力発信



初ミーティングで今後の活動に向けた意欲を示す部員

「こまちラボ」本年度初ミーティング

八戸

八戸市は27日、子どもたちのホームページ作りを担う「こどもまちなかIT部(愛称・こまちラボ)」の本年度の初ミーティングを開いた。市内の中高生が

若い感性を生かして取材に取り組み、ホームページに記事を掲載して地元の魅力を発信する。同日は20人の部員が顔をそろえ、今後の活動へ意欲を高めた。

(松原一茂)

中高生20人、HPに記事掲載へ

市が設置した「まちの魅力創生ネットワーク会議」の提言を受け、2024年度からスタートした事業。若者の視点による八戸の情報発信を充実させるとともに、活動を通して中高生に地元への愛着を深めてもらうことを目的とする。

3年目となる本年度の部員は中学生11人、高校生9人の計20人で、うち半数が昨年度から継続して参加。地元八戸の魅力をテーマに、さまざまな人や店、文化などを取材して記事を執筆する。記事はこまちラボのホームページに載せる。

IT企業のアイティワーク(同市)とデーリー東北新聞社が運営を担い、八戸工業大の学生5人が部員の活動をサポートする。

この日の初ミーティングは、同市番町のコワーキングスペース&カフェ「エスタシオン」で開かれ、熊谷雄一市長が「私たちが気付かない八戸の魅力をどんどん情報発信してほしい」と激励。部員たちは運営事業者から説明を受け、今後の活動内容を確認した。

部長を務める青森県立八戸東高2年の武部夏姫さん(16)は「部員の皆さんに楽しいと思ってもらえる活動にしたい。地元の人も知らない八戸の魅力を発信できれば」と意気込んだ。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。